

2025 年度 (令和 7 年度)

## 学校評価自己評価表

校番	福山市立 福山中・高等 学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月1日

## I 福山市

**ミッション** 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
**ビジョン** 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 自校

前年度学校関係者評価の主な内容		育成する力 資質・能力	探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神
○生徒が明るく前向きな笑顔で過ごしている様子が見られた。 ○めざす生徒像につながる取組が効果的に実践されていると感じた。 ○OHPが新しくなり、整理され閲覧しやすくなった。 ○地域との連携が、地域の方々の信頼につながっていることは大変素晴らしい。 ○中高一貫校の特徴を生かした取組が効果的に行われていると思う。	めざす生徒像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒</li> <li>○多様性を認め合う寛容さをもち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒</li> <li>○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒</li> </ul>
<b>教育理念</b>  ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローバルに活躍する人間を育成する			
<b>学校教育目標</b>  旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成			

現 状		テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
中学校	高等学校		
<p>〈生徒〉 ○「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は99.1%と非常に高いが、列車内及び登下校でのマナーにおいて地元から苦情が寄せられるという事実がある。 ○教科指導・特別活動（学年・生徒会活動・学校行事）、進路指導等、学校の取組に対する生徒・保護者の満足度・帰属意識が高い。「福山で学んで良かった」（生徒）、「福山中へ子どもを行かせて良かった」（保護者）に対する肯定的評価はそれぞれ93.4%、95.6%である。 ○「生徒会活動（委員会含む）に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は68.3%である。 ○「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は85.9%であり、10%程度評価が下がっている。 ○長期欠席数は、12人である。</p> <p>〈授業〉 ○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語78%、数学84%でいずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また、学力の伸びを把握する結果より、学力伸ばした生徒の割合は国語では1年49.1%、2年43.6%、3年49.5%、数学では1年生48.1%、2年47.9%、3年で16.2%、英語では3年89.2%であった。探究的な学びを通して、生徒は着実に力をつけている。 ○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをするための授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が92.3%といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は90.9%であり、教員の意識も高い水準である。 ○今後も、校内研修の充実を図ることとともに、数学、英語での習熟度別にきめ細かな少人数授業、総合的な学習で取り組んでいく。 ○研究学習「My探究」、全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ESDの視点を加味した授業研究に取り組み、生徒の資質・能力を育成する。</p>	<p>〈生徒〉 ○「国公立大学合格延べ数を99人以上とする」に対し94人、「難関國公立大学合格延べ数を15人以上とする」に対し難関大・医歯薬獣医合計11名の合格。 ○国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は85.0%である。 ○「モラルを理解している」との回答92.5%、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答90.5%であった。 ○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答86.8%、部活動加入率は92%であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答67.6%であった。</p> <p>〈授業〉 ○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は4年79.8%、5年71.8%、6年88.2%、教職員アンケート「授業計画表を活用した授業を実践した」の肯定的回答は82.3%。 ○「資質・能力の向上に努力している」78.0%、ループリックの「創」／「思」／「コ」の伸長率は4年2.5→2.9→2.6→3.0/2.9→3.3、5年3.2→3.9/3.2→3.9/3.4→4.0、6年3.0→3.4/2.9→3.5/3.4→3.7。 ○学校評価アンケートのほとんどの項目は肯定的評価が70%以上であり、主体的に授業や探究活動に取組む姿勢がみられる。一方、残り30%の生徒は、授業の理解度が弱く、様々な場面において自己評価も低くなっていること、この層の達成感を高める工夫が必要である。 ○継続して、ホールスクールで資質・能力を高める授業の工夫に取り組む。</p>	研究 内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究</li> <li>・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究</li> <li>・ESDの2観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり</li> </ul>
		めざす授業の姿	<p>(1) 「主体的な学び」の過程が実現できている授業            ① 学ぶことに「興味や関心」を持っている。            ② 自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。            ③ 「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。            ④ 自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。</p> <p>(2) 「対話的な学び」の過程が実現できている授業            ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考え方を広げ、深めている。            ② 「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考え方を広げ深めている。            ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考え方を広げ深めている。</p> <p>(3) 「深い学び」の過程が実現できている授業            ① 知識を相互に「関連付け」により深く理解している。            ② 情報を精査して「考え方を形成」している。            ③ 問題を見いだして「解決策」を考えている。            ④ 思いや考え方を基に「創造」している。</p>

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）									
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策					
中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継 続	基礎的・基本的な知識、技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり、自主学習を取り組んでいたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を85%以上とする。	・生徒会と連携し、現状把握のアンケートを実施した。「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒が87.6%だった。	4	4	・生徒会が行ったアンケートをもとに、生徒会と連携し、肯定的評価を行う生徒が維持できるように取り組んでいきたい。											
		継 続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・知識、技能を活用して、思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒の割合を85%以上とする。 ・定期考査において活用問題の得点率を60%以上とする。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒が87.9%だった。 ・1学期の定期考査における活用問題の平均得点率は60.1%であった。	4	4	・目標数値をすでに上回っているものの、この値を年度末まで維持できるように、授業の工夫を行っていき、授業と評価の一体化に努めていきたい。											
		継 続	高い志を持って、主体的な学びに向かうことができる生徒	・学期始めに「キャリア・ログ」を書くことで、自己をみつめ、将来なりたい自分で（職業など）の姿を考える時間をとる。	・自分は「進路について考え、目標を見つけようとしている」と答える生徒は86.7%であり、目標値を上回った。	「進路について考え、目標を見つけようとしている」と答えた生徒は86.7%であり、目標値を上回った。	3	3	・引き続き、学期始めと学期終わりにキャリア・ログを書くことで、進路意識を高めていきたい。											
中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継 続	・社会人基礎力（礼儀・マナー、自律）を身に付ける生徒 ・充実した学校生活を送るために自己肯定感の高い生徒	・登下校マナーや学校や社会のルールについての指導を充実させることで生徒の自律意識を高める。  ・SNSの使い方など、ネットリテラシーを育む学習会を開催し、全校生徒に取組を行う。  ・不登校（長期）生徒数ゼロに向けて取組を充実させる。	・礼儀、マナー、挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合90%を以上とする。  ・SNSやインターネットを適切に使用しているかに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を90%以上とする。  ・長欠ゼロ実現の為の担当者、担当と週に1回以上は連携を取り、年間30日以上の欠席者数を8人以内とし、新規長期欠席者を0人をめざす。（昨年度12人）	・生徒の肯定的回答の割合は97.5%となっており、目標値を上回っている。  ・「家庭で通信機器（スマートフォン）等を使用するルールを決めていますか。」というアンケートで「決めている」と回答した89.8%となっており、ほぼ目標値であった。  ・9月末現在で長欠者は4人、不登校は3人である。昨年から引き続き不登校になっている生徒もいるが、かがやきやメタバースを利用し、以前よりは改善がみられる。	4	4	・登下校中のマナーについては、全校集会やクラスで定期的に注意喚起を行っている。引き続き定期的に声掛けを行っていきたい。											

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒（教科「道徳」を通じて）	継続		・生徒の実態に合わせた教材選びを行い、発問を工夫することにより、生徒が自分の問題として「考え、議論する」道徳の授業を行う。	・「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を90%以上とする。		・「道徳の授業を通して『よりよく生きること』について感じることができた」と回答した生徒は、95.1%だった。	4	4	生徒の実態を学年の教員で共有し、適切な教材選びを行う。また、教材の提示やワークシートを工夫することで「考え、議論する」道徳授業の実践を図る。					
国際課題、地域課題について探究し、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】	地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	継続		・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながる取組を行う（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。		・ルーブリックは、春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.41ポイントだった（昨年度2.54ポイント） ・2年生では10月実施の職場体験学習に向けて準備を進めている。	3	3	10月に2学年で実施する職場体験学習や、My探究、各教科等で、引き続き校外とつながりを持てるように取り組む。					
自尊心を高め、学びを活かしライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒	継続		・総合的な学習の時間や教科の授業等で、浦項大東中学校等との国際交流の内容を共有し、日本と外国の良さや課題について考える機会を持つ（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。		・ルーブリックは、春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.32ポイントだった（昨年度2.39ポイント） ・9月に23名の生徒が浦項大東中学校へ訪問し交流を行った。全校で国際交流をする機会を持つことはできなかった。	3	3	海外の学校との交流を全校で持つ機会はなかなか無いが、各教科の中で、国際課題について考える機会を取り入れ、世界への興味関心を広げさせる。					

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】	継 続		様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と連携する。</li> <li>・本校生徒が活躍するオープンスクールを実施する。</li> <li>・ホームページなどで、学校生活の様子がわかる情報を保護者、地域に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールへの参加者数を750人以上、受検倍率3.2～3.5倍を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールの申し込み数は617名、参加者数は586名と目標値を下回った。（昨年度参加者763名）</li> <li>・事後アンケートの結果は、満足と回答した人は97.8%だった。</li> </ul>	3	3	夏季休業日の変更や様々な行事と重なったため、参加者が下回ったと考えられる。来年度の開催時期を検討し、目標達成を目指す。					
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新回数を月平均6回以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP更新回数、月平均6.9回と目標を上回っている。</li> <li>・毎月生徒会広報誌を地域に配付することができた。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新数や生徒会広報誌の発行は今後も継続する。</li> <li>・普段の生徒の様子や部活動の様子なども発信し、中学校のPRをしていく。</li> </ul>					

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向けて、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】	基礎的、基本的な知識、技能を備えた生徒	継続		・基礎基本の定着を意識した授業を行う。	・学校評価アンケート（生徒）「授業では、これまでに学んだことと新たに学ぶ内容とを関連付けて考えています。（広島県質問紙と同等）」を80%以上とする。	学校評価アンケート 「授業の内容をおおむね理解している」 4年:108(76.6%)/141 5年:64(84.2%)/76 6年:91.9(82.1%)/112	3	3	3	関連付けするための理解を考えると、80%超えていない学年がある。授業冒頭での振り返りや「なぜ学ぶか」を意識した授業計画をしてもらう。					
				・授業計画表などを効果的に活用し自ら進んで勉強に取り組む生徒を育成する。	・学校評価アンケート（生徒）「ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。（広島県質問紙と同等）」を50%以上とする。	学校評価アンケート 「授業計画表を活用している」 4年:68(48.3%)/141 5年:43(56.6%)/76 6年:68(60.7%)/112	3	3	3	授業計画表だけでなく、別の媒体（手帳等）の検討を行う。また、4年は高校生活のスタート段階であるため、意義や使い方が十分に理解されていない可能性がある。					
		継続	継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・「3つの学び」を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の6つの資質・能力を高める。	・「3つの学び」を意識した授業を行い、ループリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。	第1回の結果は以下の通り。 4年：創2.5思2.4コ3.0 5年：創3.2思3.3コ3.5 6年：創3.5思3.6コ3.7	3	3	3	ループリックの平均値は第2回との比較を待つ（12月）。2学期は修学旅行や探究の成果発表の機会があり、さらなる伸長が期待できる。				
	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	継続	・LHRや学年集会、進路講演会等を通して、進路実現の意識を高める。	・公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。	・進路希望調査で国公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。	高1生80.0%、高2生85.0%、高3生74.0%、全体では79.6%となった。	4	3	3	低学年には国公立大進学を意識するために個人面談や学年集会を通して指導する。3年には面談で国公立大受験の可能性を示す。					
					・進路希望調査で難関国立大学を第1志望とする生徒の割合を10%以上とする。	医歯薬希望を含め、高3生35名（8月現在）で18.1%が志望している。	4	3	3	低学年時に難関大受験支援プログラムで教科学力向上を目指し、難関大受験を意識した学習計画を立て取り組ませる。					
						共通テスト出願者は189名／193名で、97.9%となった。	5	5	5	達成した。					
			・細やかな教科指導と個人面談を通して、共通テストに出題される6教科8科目の学習を継続させる。	・国公立大学合格を97名以上とする。（延べ数、過年度生含む）	6年生国公立大希望者143名 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願予定者48名（9月現在）	5	3	3	個別の面談で生徒の希望を把握し総合型・学校推薦・一般入試において適切な受験先の指導を行う。						
					医歯薬を含め高3生8月模試での難関大C判定以上11名（D判定13名）、広島大志望16名うちC判定以上3名、岡山大志望33名うちC判定以上10名 5	4	3	3	当該生徒の教科学力と希望学部・学科を把握し、学年・進路・教科で連携して指導する。データ分析をもとに全国的な受験動向を把握する。						

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
中高の学校生活 の中で共に成長 する経験を通して、 自他を尊重し、 他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	継続			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己分析を促したり、ネットリテラシーを育んだりするような講演会を依頼し、全校生徒に取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感や、ネットリテラシーに関するアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を80%以上とする。</li> </ul>	生徒の肯定的回答の割合は92%であった。	4	4	あらゆる場面でネットリテラシーに関する情報提供および指導を継続する。				
	部活動や学校行事、生徒会行事に主体的に取組む生徒	継続			<ul style="list-style-type: none"> <li>一樹祭等を通じて生徒の主体的、自治的活動を促進する。</li> <li>各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。</li> <li>心身の発達に応じて体育祭、スポーツ大会等を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になつている」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。</li> <li>・各部活動加入率を80%以上とする。</li> <li>・「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。</li> <li>・「あなたは体育祭、スポーツ大会などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。</li> </ul>	社会のルールなど、適切な行動や態度がどれくらいかの質問に対して肯定的回答の割合80%以上とする。	4	4	今年度「挨拶励行」「時間厳守」「清掃徹底」の市立三訓を掲げた。全校集会や学年集会をとおして継続的に指導を行う。				
	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	継続			<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての委員会活動を活性化させ、各種委員会における自主的、自治的な活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは委員会活動などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。</li> </ul>	肯定的な回答が75%であった。昨年度と比較しても微増でほぼ横ばい。	3	3	継続して、各部活動が自らの発表したり、学校行事等で活躍できる場面を設定する。				
国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】	地元企業と連携した探究学習を通して、地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	継続			<ul style="list-style-type: none"> <li>グローカル人材育成事業により、高校生が担当する企業に対し、課題解決に向けた成果物を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を65%以上とする。</li> </ul>	「地域探究」は、全学年を通して71.3%、企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は71%であった。	4	4	引き続きコーディネーターや企業と連携を図り、生徒が主体的に課題解決に取り組めるようにする。				
	ユネスコスクールとして、国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒				<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修や修学旅行を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い、「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を60%以上とする。</li> </ul>	肯定率は、全学年を通して70.5%であり修学旅行や国際課題に取り組んでいる5年生の肯定率は71%となっている。	4	4	学年での「夢プロ」の充実や、修学旅行を通して異文化を体験する。また、校内で国際交流を共有できる場を設け、肯定率の上昇につなげていく。				

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継 続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・「総合的な探究の時間」で行われる「グローカル人材育成事業」や「夢プロ」、その他の様々な教科から現代社会の課題を学び、その上で自身の在り方や生き方を考察させる。	・「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を80%以上とする。	全学年を通しての肯定率は78.1%であった。各学年別では4年生が73.8%、5年生が80.2%、6年生が80.3%となってい る。	4	3	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後の振り返りや夢プロなど発表や体験を通してさらに意欲を引き出す。					
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継 続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。  ・HPやブログを頻繁に更新し、持続的で魅力ある情報を保護者、地域に発信する。	・オープンスクールへの参加者250人以上、最終の本校受検倍率1.1倍以上とする。  ・ホームページの月別更新回数を8回以上とする。	オープンスクールの参加は287名と目標値を上回り回復した。昨年度比19%増加した。（保護者を含めると475名、31%増加）  昨年からHPをリニューアルしている。更新回数は月平均18.8回と目標を上回っている。	4	4	・本校の魅力発信に一定の成果があったが、昨年度は午前のみで参加者が減少したため、今年度は午前午後の2部構成に戻した。来年度以降も2部構成として、内容の改善を各方面と今年度中から連携して取り組んでいく。					

## III 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中・高等 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
働き方改革に取組み、教職員の健康増進と教育の質の向上を図り、教育公務員としての自覚と使命感を持つ。 【信頼される学校】	教職員の超過勤務時間削減	継 続	継 続	法令遵守の自覚と使命感を持つ教職員	<p>・月1回の一斉退校日を徹底とともに、現行の業務内容について点検、見直しを行い、業務改善を推進する。</p> <p>・年間計画に基づき、不祥事防止研修研修を実施するとともに、当事者意識を高め、不祥事の未然防止に取組む。</p>	<p>・1か月の時間外労働80時間を超える職員を減少させ、月45時間以内の人数を増加させる。</p> <p>・毎週初めの職員朝会で不祥事防止に係る研修を実施する。不祥事防止研修は5回／年以上実施する。</p>	<p>月1回の一斉退校日を徹底することはできた。働き方改革を進め80時間を超える職員は昨年度より中高とも減少した。45時間以内の職員数は昨年度と比較して中高とも大きな変化はなかった。</p> <p>毎週不祥事防止に係る研修を職員朝会で実施し意識を高めた。全体研修は2回実施し、不祥事のない職場環境を維持している。</p>	3	4	<p>分掌や個人で、業務の進捗状況を管理して計画的に業務を推進できる態勢を整備していく。土日の部活動指導は顧問間で調整して負担が偏らないように配慮していく。</p> <p>不祥事を他人事と捉えずいつでもどこで起きたこと認識し、事例は全体共有するとともに、お互いに声を掛け合い、風通しのよい職場づくりを目指す。</p>					

## [プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。

## [達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多くつた。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。

## [総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度
4	80%以上100%未満の達成度
3	60%以上80%未満の達成度
2	40%以上60%未満の達成度
1	40%未満の達成度